



# 陽気だより

図書出版 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388 TEL 0743 (62) 4503 / FAX 0743 (63) 8077

養徳社

検索

昭和32年4月号から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で65年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

## ヒューズは切れるのでよい



岡島藤人

夕方の忙しい時に電灯が消えて、部屋中が真っ暗になった。

さっそく電力会社へその由を訴えたところ、間もなく工夫が自転車でやって来てくれた。

工夫いわく、

「ヒューズが切れていましたよ。これではいくらスイッチをひねっても電灯のつくはずはありません」

と言って、ヒューズを取り替えてくれたら、明々と電灯がついたので、やれやれと思った。家人が何気なく、

「ヒューズがあまり飛ばないようにしておいてくださいよ。いつかヒューズが切れて困ったことがあったんですよ」と、いかにも注意するかのごとく言った。

工夫は、

「ヒューズは切れるようになっていのですよ。切れないようなヒューズなら、つける必要はないんですよ」

と返答した。

工夫の言うのも道理で、過熱の危険を防ぐための安全弁としてつけるのがヒューズである。ヒューズが切れれば、過熱を知らずに電力を使用し

て、家を丸焼けにする恐れさえないとは言えぬ。ヒューズは切れるのでいいので、工夫の言うように、切れないヒューズなら初めからつけない方が、面倒がなくていいのである。

家人がヒューズの切れないようにという気持ももつともなことで、夕方の忙しい真最中に、ヒューズが飛んで家中が真っ暗になるほど困ることはない。その苦衷を訴えたのであろう。

私は、この両者の対話を聞いていて、どちらの言い分も分る気はするが、もちろん家人の方が黒星である。取り返しつかないような大きな危険を防止するためのヒューズ

であって、ヒューズが切れてこそ過熱を知ることが出来るのである。

ヒューズの切れた時は不便だし、付け替えてもらうのも面倒には相違ないが、それがいいのであって、有り難いと思わねばならぬのである。

こんなことは、どこの家庭にもある日常の茶飯事で、何でもない笑い事である。しかし、これに類するような出来事が人間の一生にはたえずある。病気になることを好む人はいはずなのに、教祖が身上(病氣)事情(悩み)は道の花であると仰せられたのは何故であろう。

例えば、咳が出たり、熱が出たりすることは、病氣に対する予防信号であって、ちょうど電灯線におけるヒューズのような役割をしてくれているのであって、この予報のあった時にこそ身体に気をつけねばならぬ時である。

予報は喜ばねばならぬはずだが、喜ぶどころか、かえって不足に思うようなことがたびたびある。電灯ならばヒューズが切れるので判るのだが、身体の不調のヒューズである咳や熱などにも軽視して反省もしないため

に、ついに取り返しのかかぬ結果に出くわすことがある。

病氣のことだけでは無い。われわれの日常生活のうちには、不平や不満をいだくことが多いが、その多くの場合は、むしろ感謝し反省すべきことのほうが多いのではあるまいか。

取り返しのかかぬような大事も、その原因を極めると、ほとんどの場合が取るに足らぬような小事を無視したり、取り違えたりしていることに気がつくであろう。

いかなることも、人生における出来事は、最初から大事があるのではなくて、ほとんど全ての原因は小事にあることを知らねばならぬ。

信仰の生活といい、求道の生活といふことも、そう大した難しい問題ではなくて、求むれば誰にも求め得る、日常の茶飯事に対する心構えにあることを知らねばならぬ。

夕方にひろつた工夫と家人のヒューズ問答が、はしなくも、こんなことを教えてくれた。ヒューズは、切れるのでよい。

【訂正】ナンバー90において神尾知氏の会名が違っておりました。訂正してお詫びいたします。

【誤】明昇陽分教会  
【正】名昇陽分教会



## 天理道の碑

文・高野友治 絵・青山文治

昔、明治二十年ごろ、大阪や河内の信者たちが、おちばへ歩いてお詣りに来ていた。本街道は、亀ノ瀬峠を越えて龍田町に出、安堵二階堂を通って三島に着いたのだ。

ところが、一町でも短い距離を歩きたいのが人情で、南河内の人たちは、亀ノ瀬を越えて大田口という処から、王寺町の達磨寺の前を抜けて大輪田へ出、川べりを歩いて川合に出、窪田、川東を通って二階堂へ出た。道は狭いが三十町ぐらひは短縮したもので

あろうか、この細道を歩いた。時たまたま、天理教は、明治二十一年、教会を設置して、その教規に、社会に役に立つ仕事は進んでやると標榜した。その関係もあつてか、明治二十二年ごろは、天理教徒の集団道路修理工事のひのきしんが盛んであつた。

その工事の一つとして、大田口から達磨將へ出る途中の片岡馬坂道の工事がある。このとき、大和河内の信者五人ほどが出て、ひのきしんにたずさわつた。昼は工事にかかり、夜はお寺や民家に泊まつて御手振りを学ぶなど賑やかであつたという。

### 井関久治郎墓誌名

井関久治郎は河内八上郡石原村の人なり。性は謹厚篤実。かつて天理教会の主神を崇敬せしあり。明治二十二年一月、天理教会員力をあわせて、和州葛下郡片岡馬坂山路を開鑿す。以つて行路を便せんとし、て此の拳をなせしなり。人を用いること凡そ五千工、孜孜々々として僅か数月にして竣工す。勤めりというべし。久治郎は工役にくみす。たまたま土くずれ巖裂くるの禍にかかり、命を溪谷の間におとす。ああ哀しいかな。痛ましいかな。

な。人々これを聞いて、みな涙を流してやまず。享年五十有四歳。明治二十二年二月十一日なり。久治郎子二人あり。長を廣之祐といひ、すなわち家を嗣ぐ。同年六月、教会の諸君と相ばかり、記念祭を脩め、まさに碑を建てんとす。王寺村もつて永く芳名を不朽の銘に伝えて曰く、行路を利せんことを謀り岩をくだき山を割る身は黄土に没し名は世間に伝う挿絵の左側の松の木の下にある石碑が、井関久治郎の墓誌名である。

**好評発売中**

マンガ **おびや許し**

「おびや許し」をいただく方に。

作画・金巻よしこ  
脚本・山岡美秀

A5判 28ページ フルカラー  
定価=200円+税

図書 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388  
出版 TEL0743-62-4503 FAX0743-63-8077

**『陽気』 定期購読**

お 店まで買いに行くのが大変。忙しくて購入するのを忘れた。定期購読はそんな手間を省きます。毎月 20 日前後にご自宅宛に発送いたします。(例: 11 月号は 10 月 20 日ごろ)

【定期購読料金】  
1 年分…3,420 円 (送料込)

購読に関する問合せ先 ☎ 0120-920-398 養徳社 業務部窓口

Facebook で最新情報をチェック! <https://www.facebook.com/yotokusha>

この「陽気だより」を支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。

<書籍・陽気のご購入方法について>前払いでお願いしております。お近くのゆうちょ銀行に備え付けの振込用紙をお使い頂き、[住所、氏名、電話番号、書名(陽気希望月号)、冊数]を明記の上(振替口座番号 00990-3-17694番 加入者名 (株)養徳社)へご送金ください。手数料はお客様負担となります。ご入金を確認後、速やかに商品を発送させていただきます。ご不明な点は養徳社までお問い合わせ下さい。フリーダイヤル0120-920-398 養徳社 業務部